

非正規職員が会計年度任用職員制度に移行！ 要求実現に向けて

名古屋市職員労働組合

はじめに

2020年4月、多くの非正規職員が会計年度任用職員制度への移行するなか、要求実現に向けて、名古屋市職労のみんなで取り組んだ運動と組織・強化拡大について報告します。

名古屋市には会計年度任用職員が対象になる非正規職員の方々が約260職種、6,000人（消防局を除く市長部局）ほどいるとされています。しかし、組合員の加入率はまだまだという状況です。

非正規職員の多く職種が週30時間勤務の嘱託員であり、給料や労働条件などが一定整理されていたこともあって、名古屋市では会計年度任用職員制度の労働条件について、いち早く提案が出て交渉が進んでいきました。

1.交渉の流れと運動

7月23日に市側一次提案が出ましたが、たいへんひどい内容で、交渉の場で即時、撤回を申し入れました。

7月26日に、非正規職員要求交流集会を開催しましたが、事前に市職労本部の中で「大切にしたいことは何か？交流集会の内容をどうするか？」と話し合い、まずは「会計年度任用職員制度についてみんなで理解を深めよう」「正規・非正規

問わず多くの人と手をつなぎ運動を進めよう」という目的のもと、企画を進めて参加を呼びかけました。

当日、参加者は区役所、学校、保育園、保健センター、本当にたくさんの職場から、さまざまな職種の人たちが、非正規の方だけではなく、職場の組合役員など、正規の方も含めて、70人ほどが集まりました。要求交流集会のなかで、会計年度任用職員について説明し、市側の第一次提案を伝え、その後、グループに分かれて、それぞれ問題点を出し合って、理解をさらに深めました。

集会後のアンケートでは「自分の働き方への参考になった」「制度について知らない人がいるので伝えていきたい」「会計年度職員についてはじめて聞いた」「まだ分からない」「不安」「怒り」「落胆」「もう民間で他の仕事を探したい」などという声が出ました。

参加者の発言のなかでは『自分たちの労働条件こんなに悪くなるんだ！』ということ伝えて、組合員をこれから増やしたい。みんなで頑張りたい」という前向きな声もたくさんありました。

それを受けて8月1日には、7月26日の要求集会に参加した人たちを中心に集まり、「今後どうしていこうか考えよう」

と会議を開きました。そのなかでも、まずは「この制度を多くの人に知ってもらいたい。この悔しい思いをみんなで伝えたい」という話になり、ビラづくりを行いました。



8月10日の朝、出勤する職員にビラ配布しました。顔がたくさん載っている方を表にして折り、みんなが「なんだろう?」と受け取ってくれる物にしました。ビラにある言葉は、要求交流集会のアンケートの中で出てきた声です。

8月15日の市側二次提案は、改悪案を少し押し戻したものに止まり、再検討を申し入れました。

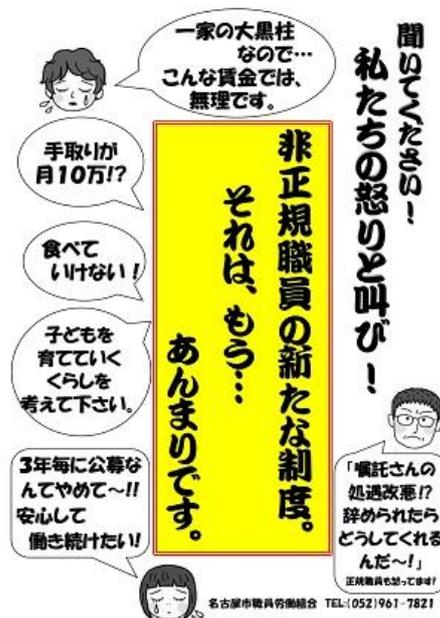
その後、再び会議を行い、参加した方々の声を集め第二弾のビラを作成し、8月30日に配布しました。ビラの中に「非正規職員の新たな制度、それはもうあんまりです」という言葉を表に目に入るようにして、裏に二次提案について記載しました。

粘り強く会議や学習会の開催、上申行動やビラ配布などの運動を背景に交渉を続け、10月11日の市側最終回答では現行水準をほぼ確保、一部改善を勝ち取ることができました。

12月3日にもう一度、非正規職員要求交流集会を開催しました。そこでは60

人以上の参加があり、最終回答を共有し、新しい組合員も発言して今後の決意や思いを語りあう集会となりました。

休暇制度や賃金のことは全体としては一段落しましたが、現在も各局と支部とで個別の職のあり方について交渉があり、それに向けてがんばろうと参加者で確認しました。



2. 各支部で、職場で、学習会などを行い、組合加入へ

各支部でも活発に取り組み、組合員だけでなく、正規・非正規を問わず、全職員にビラを配布しました。

その結果、「もっと情報を知りたい」という人や個別の相談にも応じ、また、支部や職場で会計年度任用職員制度についてもっと理解をしようということで学習会を行いました。その学習会には組合未加入の非正規職員に「組合に入ることによって情報が得られる」「組合員数が増えて声を大きくすることで要求実現に結び付く」

「あなたの声が必要」と組合加入を呼びかけ、そして、多くの非正規職員の組合加入が実現しました。

仕事が忙しいなか、ピラ配布や学習会が開催できなかった支部や職場もありましたが、市側の第一次提案が出たあと、職場や支部でさまざまな取り組みが行われました。提案を聞いた非正規職員の方々から「私たちも正規職員と同じように市民のために一生懸命に働いている」「こんなにプライドもって仕事をしているのに、給料や処遇がこんなに下げられるのは納得いかない」「給料が低くて生活していけない。他の仕事を探さなければいけない」などの怒りの声が多くでした。この思いを届けて、よりよい労働条件にすることを多くの人びとに伝え、組合員を増やし、市側の提案をはねのけよう、という強い思いをもったみなさんがいたおかげで運動がすすんできたと思っています。

非正規職員の方々に声をかけるなかで、様々なエピソードがありました。

ある区役所では、この会計年度任用職員制度を知って、不安に思う非常勤職員のうちのある職種の方々の声が多くなったので、区役所でその職種の方を対象に学習会を開きました。当事者の思いを受け止め、学習を行ったことで、多くの方の組合加入となりました。

保育園職場では、臨時職員を対象にした交流会で保育に使えるおもちゃづくりをしたり、会計年度任用職員制度について説明しました。そして「今も交渉が続いていて多くの人声が必要です。組合加入をしてください」と訴え、その場で

組合加入につながりました。

3. 取り組みで感じたことや今後の課題

この間のとりくみを通じて、「みんなで学習し、理解を深め、多くの人に情報を広げる」ということ、職場からの声を集め、その声に丁寧に対応すること、そして、「要求実現のためにみんなの声が必要」と伝え続けた結果、多くの人々の組合加入につながったと私は感じています。

当事者や支部の方々が行動したことによって組織拡大につながり、交渉するなかで一歩ずつ改善へと向けた回答を勝ち取ることができました。私はみんなと一緒に運動をして、「組合の力はすごいんだ」ということを実感しました。

本部と市側の交渉は一段落しましたが、今後の課題としては、「再度の任用の3回目は公募になる」ということで、安心して働く労働条件にはまだまだほど遠いものです。

年末、年始と続く支部と局とのやり取りでも、「週30時間では足りないから、フルタイム化を」「正規化を」という要求を出しても、市側の提案はほぼ現行どおりの案で、それをなんとか打破していかなければいけません。そのなかで保育園臨職でフルタイムの回答が出ました。これにより給料や休暇などの改善ができたことは大きな成果です。しかし、市当局からは、人件費を抑えろという圧力も強くなっています。

今回の取り組みで組合加入者が増えましたが、これからも労働条件を改善するためには、さらなる組織拡大が必要です。

2019年2月28日

まだまだ課題は多くありますが、市民サービス向上のためにも、非正規職員が安心して働き続けられる労働環境をめざし、職員みんなが一丸となって取り組めるように、今後も働きかけを続けていきたいと思います。